



心 ひびかせ 川北っ子

川上北小だより

8・9月号

かかわり合い
わかり合い
きき合い
たかめ合い

横浜市立川上北小学校
令和 8 年 8 月 27 日
戸塚区川上町 63-1
Tel 045-822-0845

ky-e-kawakamikita@city.yokohama.lg.jp

主語は子ども

校長 馬場 弘子

熊本地震、千葉豪雨と甚大な被害が相次いだ夏となりました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々、ならびにご家族、ご親族の皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心からお祈りしております。

さて、本校では9月2日に、『総合防災訓練』を実施いたします。東日本大震災の際には日本人の整然とした避難の様子が世界中から称賛の声をいただきました。これは、小学生のときに毎月のように行ってきた避難訓練が実際の避難の際に大きく影響しているものと考えます。こうした訓練を適切に行うことの重要性を再認識いたしました。

8月18日には、関内ホールにおいて「横浜市教育課程研究委員会 総則部会」が開催されました。約16万人の横浜市小学生児童を代表する子ども実行委員として、本校6年生の横溝彩羽さんと田淑馨さんの2名が出席しました。



当日は次のようなテーマについて意見交換が行われました。

○夢中になれるときってどんなとき？

「理科の実験、図工、家庭科、音楽」

○夢中になれないときってどんなとき？

「苦手なことや不得意なことに取り組むとき、集中できなくなる。」「嫌いな教科のときは夢中になれない。」

このほかにも、中学生、高校生など各校種の代表児童生徒と話し合い、活発に意見を交わしていました。オンライン参加を含めると総勢1200人以上の前で、堂々と発言する姿はとても頼もしく感じられました。私が特に印象に残ったのは、司会者から最後に「他に先生たちへ伝えたいことはありますか」と問いかけられ、二人がそろって手を挙げて主体的に発言をしたことです。一人は「パワーアップ教室に行くとき苦手な教科もその子に合った方法で学ぶことができる。」と話しました。もう一人は「国際教室では、海外の言葉を日本語に翻訳する機械を使うこともあるけれど、その機械に頼りすぎないほうがよいと思う。」と発言しました。実際にパワーアップ（特別支援教室）を利用していなくても友だちの様子を見ながら感じていることを自分の言葉で伝えてくれました。また、私たち教職員が良かれと思って活用している機器についても子どもによっては学びの妨げになる可能性があることに気付かされました。子どもたちの視点からの貴重な意見であり、私たちに新たな学びを与えてくれました。

学校説明会では子どものアンケート結果から見えてきたことをお伝えしました。しかし、まだまだ、子どもたちとの対話を重ねる必要があると感じています。「子どもは分かったか。」「子どもは夢中になれたか。」「子どもは達成感を得られたか。」このように子どもを主語にした会話を私たち教職員がさらに重ねていかなければなりません。

子どもたちの思いをしっかりと受け止め、次は我々教職員が試行錯誤を重ねる番です。「川北の子ども達の思い～みんなで輝く川北へ～」川北っ子の前期後半が今日からスタートです。引き続き、本校の教育活動へのご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

